

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03437

研究課題名(和文) 複数言語背景の子どもの日本語支援を支えるネットワーキングに関する実践的研究

研究課題名(英文) Pragmatic Research on the Japanese Language Support Networking for the Children with Multi-lingual Background

研究代表者

石井 恵理子 (Ishii, Eriko)

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：90212810

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,950,000円

研究成果の概要(和文)：複数言語背景の子どもの日本語および教科学習支援については、課題の所在や支援の方法が変化しており、個々の現場での対応や、固定的な組織体制での解決は困難であるため、家庭・地域・学校の関係者・機関等の連携体制の構築が必要である。日本の社会制度や学校制度の枠組みにおいて多様かつ変容し続けるこの課題に対して、人や場の繋がりによる連携や協力が重要な役割を果たしていることを、ネットワーキングの形成に着目して明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

複数言語背景の子どもの日本語支援には地域全体の動的な支援システムとしての連携体制が必要である。組織、場、活動などを介して展開していく人びとの「つながり」「関わり合い」によって動的に現れる協力・連携の活動に着目して、より広い視野によって捉え、その成果を学会での研究発表の形で発信した。国、自治体、国際交流協会に対しては関連会議の委員等の立場から発信した。子どもの日本語に関わる関係者間の課題や実践知の共有・蓄積の場となる研究会や研修会等を通して、学習指導の充実と広域のネットワーキングの促進を促す実践的研究となった。

研究成果の概要(英文)： This summary outlines the result of a research on the need of building an educational support system in Japanese language learning and other subjects for children with multiple language backgrounds. By focusing on the formation of networking in particular, the research revealed that the cooperation among relevant personnel and institutions such as homes, communities and schools play an important role within the framework of Japan's social and school systems. The difficulties in educational support for the multilingual children lie in finding effective interventions for individual cases on the spot such as in the classroom, and in solving them within the given rigid organizational structure because the issues these children are facing and the support methods applied are so diverse and continuously changing.

研究分野：日本語教育

キーワード：子ども 複数言語背景 ネットワーキング 言語支援 発展型支援体制 地域コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

グローバルな人的移動の拡大に伴い、多様な言語文化背景の子どもたちに対する教育は、国際的な課題となっている。一時的な滞在ではなく、多くは長期滞在者あるいは永住者として社会の一員となる人材であり、その育成は極めて重要な社会的課題である。カナダ、米国、オーストラリア等の移民国家においては、少数派言語話者の言語習得および教育に関して、学校教育における対応が法に基づく体制の整備によって行なわれ、教育の理念、形態、カリキュラム、教室活動・教授法等に関する実践に基づく研究が蓄積されてきている。また、日本と同様に近年急速に多言語多文化化が進行している韓国でも、2008年に制定された「多文化家族支援法」に基づく言語教育支援が進められており、制度の整備や実施状況についての調査研究の報告がなされている（松岡 2008、新谷ほか 2010、呉 2012 など）。

翻って日本ではいまだ法的な基盤の整備が進んでいない。多様な言語文化背景の子どもたちの教育に関しては、文科省による「JSLカリキュラム」の開発（2003、2008）や教材作成（『日本語を学ぼう』1996）、教員研修等が行われてはいるが、学校現場でのこれらの認知度、活用度は非常に低い（石井 2009）。平成 26 年、文部科学省が「日本語指導が必要な児童生徒」に対する日本語指導の特別の教育課程を施行し、子どもの日本語指導が正規の教育として位置づけられた。これは画期的なことであるが、施行後 1 年半経過した現在、特別の教育課程としての日本語指導が実施されている学校はごく一部にとどまる。その背景としては、指導に当たる第二言語としての日本語指導の専門性を有する者が極めて少なく、研修の機会も得にくいこと、学校に指導のための人員や予算がないことなどが挙げられる。特別の教育課程施行以前においても、日本語指導経験の豊富な地域のボランティア指導員に日本語指導を任せているケースが多く見られたが、正課となっても教員のみでは十分な指導は困難で地域の支援者の関与が不可欠な状況であることが報告されている（川上ほか 2014）。

複数言語文化背景の子どもに関して、就学前のプレリテラシーの獲得や認知発達等の状況が就学後の学習や言語能力の伸長に大きな影響を与えていることが指摘されている（石井 2013）。学齢期前の家庭や地域、保育の場などにおける子どもの言語環境や言語発達の研究は、日本語教育のほか、発達心理学（柴山 2001、石黒 2002）や教育社会学（清水 2006）等の研究領域、あるいは複数の研究領域の混成による研究（柴山ほか 2014）など多領域に広がり、幼児期から学齢期につながる言語基盤形成の重要性が取り上げられている。しかし、複数言語文化の子どもたちの教育においてはこの連続性が確保されていない。社会的言語リソースの乏しい少数派言語話者の親への支援も含め、日本語指導が必要な子どもたちが十分に学校教育によって学力を身につけ得る学校と地域、家庭の連携による包括的な学習支援の確立が必須である。そのためには家庭や地域コミュニティ、保育の場、学校など子どもが育つ様々な場を視野に入れた支援体制構築に資する研究が求められる。

2. 研究の目的

日本社会で育つ複数言語背景の子どもたちの日本語および教科学習支援は、家庭・地域・学校の関係者・機関等の連携体制の構築が必須である。外国人材受入の拡大、日本で育つ多様な子どもの増加が急速に進む中、現状の課題と今後の展開を予測した方策を考えるためには、現場から離れた研究ではなく、学校、家庭、地域の人々の課題に取り組む実践活動を

通した研究が必要である。また各地域や教育現場、子どもや家庭の極めて多様な状況であることに鑑み、固定的な組織構築モデルでは十分に課題の所在の認定や対応が困難である。

本研究では、幼児期の家庭や地域におけるプレリテラシーの育成から、学齢期の教科学習を支える認知言語能力の育成という言語発達段階の全体を視野に入れる。学校・地域・家庭それぞれの支援と、個々の場では解決困難な課題の解決のための相互の連携・協力の実態と課題を明らかにする。固定的組織モデルではなく、具体的課題解決過程において拡張・変容する動的なネットワーキングを捉えることにより、多様な地域や教育現場の特性に即した発展型支援体制構築に資する動的モデルを構築することを目的とする。

3．研究の方法

日本語指導・支援に関する概況の把握と整理を行い、数か所の調査対象拠点を決定し、観察・実践参与・聞き取り等により、各拠点での支援の実態と課題、拠点内部及び外部との関係、それらの展開・変化について経年調査を行う。国内調査に加え海外の日本語背景の子どもの教育を調査し、マクロレベルの教育体制や社会構造の異なる環境でのミクロレベルでの指導・支援実践の内容・方法、課題について、日本と比較する。

本研究では、研究者が一部実践にも参与し、課題解決過程での動的なネットワーキングの一部となることで、ネットワーキングによる課題解決の協働的实践研究を試みる。

研究成果は、学術的には学会での研究発表により、教育関係者には研究会・研修や書籍の形で発信する。国、自治体、国際交流協会に対しては関連会議の委員等の立場から発信する。

4．研究成果

平成 28 年度の研究成果；

国内・海外における調査地、調査対象機関・組織の選定のための情報収集を行い、調査可能な状況となったところから、順次調査を開始した。

国内については、埼玉県さいたま市、横浜市、川崎市、静岡県、長野市、熊本市について、子どもの日本語教育に関する地域全体の状況の把握と、課題となっていること、現在の取り組み等についての状況を、研修会等の機会をとらえて聞き取りを行った。

海外については、カナダの日系人が多数居住しているブリティッシュコロンビア州のグラッドストーン市、リッチモンド市の2市日本語背景の子どもについて、概況を調査した。さらに日本語学校等の協力を得て、子育て中の親(主に母親)を対象にアンケート調査およびインタビュー調査を実施した。カナダにおけるインタビュー調査の分析をもとに、子育てネットワーキングにおける活動形態に関する研究発表を行った。

また、次年度に予定していたタイ調査に関して、バンコク市で現地の研究会に講師として参加できる機会が確保でき、前倒してタイの概況についての情報を得ると共に、研修後に参加者に対して調査協力の募集を行い、協力者を確保するなど、次年度の調査研究の足場作り、予備的調査を行うなど、海外調査について計画を変更し、進めた。

研究会(子どもの日本語教育研究会)を立ちあげ、8月に横浜市でワークショップ、12月に京都市で研究会、3月に東京で研究大会を行い、複数言語背景の子どもに関わる研究者、教師、支援者、行政担当者等、関係者による研究の発表と情報交換・共有を促進すると共に、課題の所在を探った。

平成 29 年度の研究成果；

国内では、墨田区、横浜市、さいたま市、川口市について、地域全体の子どもの支援状況の把握と課題等の調査を行うとともに学校での日本語指導の状況について、現状と課題の

把握を進め、日本語指導にあたる教員の役割等について検討した。本研究組織を中核として立ち上げた「子どもの日本語教育研究会」では、学校教育における日本語教育とキャリア形成をテーマとした第2回ワークショップ(8月、名古屋国際センター、参加者約140名)、第2回研究会(12月、東北大学、参加者約200名)、第3回大会(聖心女子大学、参加者220名)を開催した。本研究による成果について4件の発表(ポスター発表1件、パネル発表3件)を行った。そのほか多数の研究者、学校教員、学習支援者、学生、行政関係者等による多くの発表があり、多様な教育実践と研究の動向等について、情報収集を行った。

海外では、前年度実施したカナダ調査の分析を進め、第38回異文化間教育学会(東北大学)で発表を行った。5月~6月にタイ国バンコク市、シラチャー市で親を対象に23件の聞き取り調査を行った。2018年3月にはバンコク市で補完調査を行うとともに、国際交流基金バンコクセンターでの「タイ国日本語教育研究会」、JMHERAT主催の「タイにおける母語・継承語としての日本語教育研究会」において、現地の研究・教育活動の現状把握、インターナショナルスクールの実地調査等により、データ分析のための現地状況の把握と、当事者に対する本研究の知見を踏まえたフィードバックを行った。9月に韓国ソウル市、大田市、儒城市で親への聞き取り調査を行い、各調査地域間の差異を検討するデータを得た。

国内においては、情報収集と聞き取り、また前年度に得た知見を学会・研究会・ワークショップ等多様な場でポスター発表等を行い、関係者への還元と新たな課題や今後の研究についてのフィードバックを得る機会を得ることができた。海外に関してはカナダ調査については2016年度に続き、異なる観点からの分析による研究成果を発表できた。タイでは、昨年度末の準備的に調査を始めた聞き取り調査を、30名を超える多くの協力者を得て、予想以上の数のデータを得ることができた。一方、比較対象として韓国での調査も実施することができたが、データの分析は十分進められておらず、次年度への持ち越しとなった。

平成30年度の研究成果；

これまでに実施した複数言語背景の子どもの状況および支援に関する調査の分析を進め、順次、学会・研究会等で発表を行ない、フィードバックを得た。学齢期の子どもについては、十分な支援体制が得られないケースが非常に多いことが根本的な問題であり、教育支援体制整備がまず基本として進められなければならないことがほとんどの地域における課題として出てきている。支援体制がある程度できている地域について見ると、支援を行う人や場、機関等がそれぞれに固定的に関わる体制となっているところが多い。それぞれの分担の範囲で進められ、横のつながりが乏しい体制では問題が発生しやすく、解決の方策がとりにくいことも見えてきた。子どもを取り巻く多様な立場、専門性、関係性等の人や組織のつながりの有用性が認められた。また、当事者である親に対する支援が見られたところでは、家庭における子どもの支援がよりよく機能することも認められた。

本科研のプロジェクトとして立ち上げた「子どもの日本語教育研究会」は、計画通り1年に3回の開催で実施してきている。ワークショップ、研究会、大会、という3種類の異なる方法や内容、主たる参加者層を想定したそれぞれの特徴を持った、複数言語文化の子どもの教育に関する実践・研究の発表と共有の場として実施してきている。研究会に対する認知も広がり、開催地域の特性を勘案したテーマ立てによる企画をしてきた。例えば、甲府会場でのワークショップは学校教員、あるいは地域の支援者を主たる参加者として想定し、地域ごとの支援体制の状況や、連携の工夫などをそれぞれの地域特性を踏まえて理解し、自分の現場との比較や応用などを考えるための事例の共有を意識した意見や情報の交換を進める機

会となっていることが、会場での様子やアンケートから確認することができた。研究会が単なる成果発表に終わらず、極めて多様性の大きい各実践の環境を踏まえつつ、発表を発表者および参加者の対話的問題解決につなげていく1歩となりつつある。ネットワーキング、発展型支援体制という本研究のキーワードでもある重要項目についての成果が少しずつ見えてきている。調査研究について、データ分析を順次進め、得られた学術的知見については、学会・研究会での発表を重ね、フィードバックを得ている。また学校教員や地域の支援者、当事者である親を対象とした10数件の研修を本科研メンバーが講師として担当し、教育実践の領域への還元とそこからのフィードバックを得ている。

令和1年度の研究成果；

年度計画に基づき、8月に広島において研究会を開催した。市の教育委員会からの協力をとり、市の小学校を会場とし、教育委員会にも働きかけたことにより、参加者は研究者や子どもの日本語・母語の習得に関わる実践者にとどまらず、学校教員や教育委員会関係者など、幅広く子どもの教育に関する人たちの参加を得た。言語教育の関係者のほか、心理学領域からの知見も得られ、子どもに関わっている多様な立場の実践者それぞれにとっても大きな刺激を得られた。学齢の子どもたちの環境整備には、家庭と共に学校の状況が大きな役割を果たす。個々の教員の努力は、学校という環境の中では少数の存在であり、学校のカリキュラムの中で彼らの指導に割ける時間や人員を確保する必要は必ずしも周囲に理解されない。11月に開催した研究会では、実践者と研究者の双方の立場から、複数言語の子どもを取り巻く課題とそれを取りまく日本語の指導についての議論が得られた。

令和2-4年度の研究成果；

新型コロナウイルスの影響により、本科研のプロジェクトとして立ち上げた「子どもの日本語教育研究会」の活動として予定していた2020年の大会はweb上での意見交換会、オンライン情報交換会に切り替え、その後の2021、2022年の大会と研究会はすべてオンラインでの実施になった。いずれもweb上で公開し、成果の発表・共有ができるようにした。2022年3月の第7回大会には事前申し込み参加者が450名、当日参加者が300名弱であった。

また、3月に予定していたタイ国バンコクにおけるセミナー「複数の言語・文化で育つ子どものリテラシーを考える」も、タイ政府によるコロナでの入国自粛要請により、オンラインでの実施に切り替えて対応した。

いずれの研究会やセミナーについては予定を大幅に変更することとなったが、各地域で複数言語環境の子どもに関わる教師や支援者、保護者等への研修会実施と、その際に行った聞き取りによって、多様な立場の当事者のデータを得ることができ、得られた学術的知見を学会・研究会で発表していくと同時に、教員や地域の学習支援者、複数言語環境で子育てをする親(当事者)等、子どもの育成に関わる実践者への知見の提供を進めてきた。2020.9月にはBMCN主催のオンライン国際フォーラムで「国内における年少者日本語教育と母語・継承語の育成 現状と課題」と題して講演を行った。

今後も研究や教育の成果、課題等の共有と多様な実践例の蓄積を進める。親や教師、支援者等による子どもの教育・支援における問題の収集・分析を継続しつつ、そうした個々人あるいは個々の場で取り組んでいる問題、異なる立場の人や組織間の連携の実態と可能性について情報を収集しつつ、支援ネットワーキングに関する多様な事例を収集・分析していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 齋藤ひろみ	4. 巻 40
2. 論文標題 多様な言語文化背景をもつ生徒に対する教育の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学国語教育学会『国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 62-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ	4. 巻 2
2. 論文標題 子どもたちの「ことばの学び」を描く - 実践の言語化と共有 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『子どもの日本語教育研究』	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ	4. 巻 22
2. 論文標題 JSLの子どもを対象とする内容重視の日本語教育 - 日本国内の実践・研究の動向から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第二言語としての日本語の習得研究	6. 最初と最後の頁 10-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ	4. 巻 49
2. 論文標題 JSLの子どもを対象とする内容重視の日本語教育 - 日本国内の実践・研究の動向から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 145-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井恵理子・毛受敏浩	4. 巻 -
2. 論文標題 多文化共生社会における日本語教育の未来	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本語』	6. 最初と最後の頁 96 - 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池上摩希子	4. 巻 11月号
2. 論文標題 地域における日本語教育の現状と課題 「生きるためのことば」という視点の必要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ガバナンス』	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池上摩希子	4. 巻 2
2. 論文標題 校内で教師が共に考える「勉強会」の実践 - 外国につながる子どものことばの教育を支える試みから見える教師の変容 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子どもの日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 79-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木真奈美・池上摩希子・古屋憲章	4. 巻 17
2. 論文標題 個人の経験を社会・変革・未来へつなげる実践を目指して ナラティブをリソースとする教材作成の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語文化教育研究	6. 最初と最後の頁 404-423
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ビアルケ千咲・柴山真琴・高橋登・池上摩希子	4. 巻 172
2. 論文標題 継承日本語学習児における二言語の作文力の発達過程 - ドイツの補習校に通う独日国際児の事例から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 102-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深澤伸子・池上摩希子	4. 巻 9
2. 論文標題 タイにおける複言語・複文化ワークショップの実践 「自分を語り他者と体験を共有する場」を作り、繋げていく意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ジャーナル 移動する子どもたち - ことばの教育を創発する	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜田麻里・齋藤ひろみ	4. 巻 1
2. 論文標題 日本語指導が必要な子どもに関する現職教員のピリーフ 影響を与える経験に着目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもの日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ	4. 巻 5号
2. 論文標題 「実践の語り直し」の可能性 - 『イマ×ココ』フォーラム2017から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語教育実践イマ×ココ	6. 最初と最後の頁 12 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ・菅原雅枝	4. 巻 108
2. 論文標題 外国人児童生徒等教育を担う教員の「加配」 制度を巡る諸課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 15 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ	4. 巻 1035
2. 論文標題 国内で日本語を学ぶ子どもたちー言語文化背景の多様性とライフコースー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 11 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ	4. 巻 763号
2. 論文標題 子どもの「ことばの表現力」を高めるー外国人の子どもの作文分析の結果からー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 74 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池上摩希子	4. 巻 No.1035
2. 論文標題 国際化の中で学力を捉える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 75 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ	4. 巻 No.1035
2. 論文標題 国内で日本語を学ぶ子どもたちー言語文化背景の多様性とライフコースー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 11 -18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤ひろみ・見世千賀子・佐藤郡衛・野山広・浜田麻里	4. 巻 43号
2. 論文標題 異文化間教育学における実践・現場への接近法 現場へのまなざしを研究行動へ展開する	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 13 -31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池上摩希子	4. 巻 No.1035
2. 論文標題 国際化の中で学力を捉える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 児童心理	6. 最初と最後の頁 75 79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 国内における年少者日本語教育と母語・継承語の育成 現状と課題
3. 学会等名 Bilingual/Multilingual Child Network (BMCN) 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 「日本語教育の推進に関する法律」と今後の課題
3. 学会等名 Bilingual/Multilingual Child Network (BMCN) 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶽肩志江、石井恵理子、桶谷仁美
2. 発表標題 多言語環境にある子ども達の受け入れ状況に関する調査<中間報告>
3. 学会等名 Bilingual/Multilingual Child Network (BMCN) 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤ひろみ
2. 発表標題 多様な言語文化背景をもつ生徒に対する教育の現状と課題
3. 学会等名 早稲田大学国語教育学会(280回大会) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内田千春・齋藤ひろみ
2. 発表標題 就学前の外国籍児童・親子へのプレスクール教室の実践による家庭の文化資本の発掘
3. 学会等名 M H B 研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池上摩希子
2. 発表標題 外国につながる子どもに対する日本語教育に求められる内容と方法 「行政の動向も視野に入れながら考えるべきこと
3. 学会等名 東京の日本語教育を考える会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池上摩希子
2. 発表標題 子どもたちの『日本語で学ぶ力』を生かす授業の工夫
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会 第4回ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市瀬智紀・齋藤ひろみ・濱田麻里・中山あおい
2. 発表標題 多様な言語文化背景をもつ子どもの教育 - 人材育成における「特別視しない」という壁
3. 学会等名 日本国際理解教育学会 第29回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内田千春・齋藤ひろみ
2. 発表標題 子どもの複言語発達を保障する保育・教育に求められる専門性の検討
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中宝紀・小島祥美、宮崎幸江・石井恵理子・阿部新
2. 発表標題 日本語教員養成の新しい役割と可能性 日本語指導が必要な子どもたちを取り巻く学習環境を手がかりとして
3. 学会等名 2018年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井恵理子・桶谷仁美・嶽肩志江
2. 発表標題 外国につながる子ども達の支援グループと行政機関との連携に関する調査
3. 学会等名 バイリンガル・マルチリンガル子どもネット研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 「日本語教育推進基本法案（要綱）」の意味と影響
3. 学会等名 バイリンガル・マルチリンガル子どもネット研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 日本語教育の推進 理念、方法、意義
3. 学会等名 東海日本語ネットワーク 日本語ボランティアシンポジウム2018（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 地域日本語教育力をめぐって
3. 学会等名 大阪府識字・日本語学習シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 家庭における少数派言語文化の継承 ことばと文化の豊かな継承に向けた親の工夫と、親への支援
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 工藤聖子・三好大・齋藤ひろみ
2. 発表標題 日本生育外国人児童の小学1年時作文の計量的分析 日本人児童との比較を通して
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会 第4回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川祐治・和泉元千春・仲本康一郎・齋藤ひろみ
2. 発表標題 「文化間移動をする子どもの育ち」を支える教育人材の育成
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会 第4回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤ひろみ・菅原雅枝
2. 発表標題 学校教員の意識変容を促す日本語指導研修 参加者の期待とピリーフの調査から
3. 学会等名 日本語教育学会 2018年春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅原雅枝・齋藤ひろみ
2. 発表標題 外国人児童の「意見文を構成する力」の発達 小学6年生の作文の分析を通して
3. 学会等名 日本語教育国際研究大会（ICJLE）2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浜田麻里・金田智子・齋藤ひろみ・宇佐美洋
2. 発表標題 日本語教師の成長を促す「方法」について考える 3つのアプローチから
3. 学会等名 日本語教育国際研究大会2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤ひろみ・伊東祐郎・浜田麻里・各務真弓・山崎準二
2. 発表標題 外国人児童生徒等教育を担う教員・支援員の資質能力の育成
3. 学会等名 日本教師教育学会 第28回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松原マリナ・高見成見幸・今井むつみ・齋藤ひろみ
2. 発表標題 多様な言語文化背景をもつ子どもたちの「考える力」を育む 日本語と教科の学習支援を通して
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会 第3回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深澤伸子・池上摩希子
2. 発表標題 タイにおける複言語・複文化ワークショップの実践 「自分を語り他者と体験を共有する場」を作り、繋げていく意義
3. 学会等名 タイにおける母語・継承語としての日本語教育研究会 第14回セミナー（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池上摩希子
2. 発表標題 社会とつながる日本語教育を実践する人材を育成する試み - 修士課程での教育実習を事例として -
3. 学会等名 日本語教育国際研究大会2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋山幸・石井恵理子
2. 発表標題 地域の拠点と人を横断する子育てネットワークにおける「学習」の実践 カナダの日本語背景の子どもを持つ母親の聞き取り調査から
3. 学会等名 異文化間教育学会第38回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嶽肩志江、石井恵理子、桶谷仁美
2. 発表標題 外国につながる子ども達の支援グループと行政機関との連携」
3. 学会等名 バイリンガル・マルチリンガル（BM）子どもネット研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安場淳、八倉周子、濱田 麗子、山崎 哲、石井恵理子
2. 発表標題 親から子へ、子から孫へ伝わるもの、伝えられないもの 中国帰国者二三世家庭を中心に見た複数言語親子間の言語と歴史の「受け継ぎ」
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会 第3回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 複数言語環境で子育てをする親の言語と教育に関する意識と選択 タイにおける面接調査から
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会 第3回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 語彙テストの課題
3. 学会等名 2017年度DLA科研公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 豊かな社会形成を目指す日本語教育
3. 学会等名 インターカルト日本語学校 第13回研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森薫嗣・齋藤ひろみ・田中祐輔
2. 発表標題 JSL児童が在籍学級の学習に参加するための日本語～教室談話と教科書の語彙分析の結果から～
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会 第3回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤ひろみ・菅原雅枝・三好大・李佳耀
2. 発表標題 日本生育外国人児童の小学校低学年におけるリテラシーの発達 日本語による意見文作文の「理由」に着目して
3. 学会等名 異文化間教育学会 第38回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浜田麻里・齋藤ひろみ・松本一子・菅原雅枝
2. 発表標題 「特別の教育課程」による日本語指導の実施状況とその課題・集住・分散地域の現状と担当者が抱える問題
3. 学会等名 日本語教育学会2017年春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅原雅枝・齋藤ひろみ・鳶田陽子
2. 発表標題 外国人児童の小学校中学年における「考えを述べる力」の発達 - 「意見文」の分析を通して -
3. 学会等名 第39回社会言語科学会研究大会発表
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井恵理子
2. 発表標題 BM 幼児家庭への子育て支援 - 国内の地域における取り組み
3. 学会等名 バイリンガル・マルチリンガル (BM) 子どもネット第1回学習会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 秋山幸、石井恵理子
2. 発表標題 カナダで育つ日本語背景の幼児の親が抱える課題解決に向けたネットワーキング
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会 第2回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤ひろみ・横溝亮・西村綾子・齋藤潔・菅原雅枝
2. 発表標題 日本語指導を担当する加配教員の役割と可能性
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会第2回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋山幸・石井恵理子
2. 発表標題 地域の拠点と人を横断する子育てネットワーキングにおける「学習」の実践 カナダの日本語背景の子どもを持つ母親の聞き取り調査から
3. 学会等名 異文化間教育学会第38回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 荒牧重人、榎井縁、江原裕美、小島祥美、志水宏吉、南野奈津子、宮島喬、山野良一、齋藤ひろみ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 外国人の子ども白書	

1. 著者名 田尻英三、中川正春、丸山茂樹、助川泰彦、吹原豊、布尾勝一郎、神吉宇一、石井恵理子、野田尚史	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 233
3. 書名 外国人労働者受け入れと日本語教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齋藤 ひろみ (Saito Hiromi) (50334462)	東京学芸大学・教育学研究科・教授 (12604)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	池上 摩希子 (Ikegami Makiko) (80409721)	早稲田大学・国際学院（日本語教育研究科）・教授 (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関